

世界最古の映画会社ゴーモン、 そしてパテにおける映画保存

紙屋牧子

Makiko Kamiya

2018年12月6日から7日にかけて、最古の映画会社であるゴーモン(Gaumont、1895年設立)、そしてそれに次ぐ映画会社であるパテ(Pathé、1896年設立)を母体とした、フランスの3つの施設、ゴーモン・パテ・アルシーブ(Gaumont Pathé Archives、以下GPA)、ジェローム・セドウ・パテ財団(Fondation Jérôme Seydoux-Pathé、以下FJSP)、ゴーモン・ミュージアム(Musée Gaumont、以下MG)を訪問し、調査を行った。対応してくださったGPAのマヌエラ・パドアン氏とシリル・ロリヴィエ氏、FJSPのステファニー・サルモン氏、MGのコリンヌ・フォージュロン氏に記して感謝したい。以下に各施設のコレクションの特色や役割分担について報告する。

GPAは、シネマテーク・ゴーモンとパテ・アルシーブが合併し2003年に設立された組織で、ゴーモンとパテ両社のフィルムおよび映画関連資料を管理する。フィルムは、草創期から無声映画



ゴーモン・パテ・アルシーブの収蔵庫にて。

期までの劇映画(トーキー以降の劇映画はGPAの管理外である)、そして全ての記録映画・ニュース映画(約14,000時間分)を管理し、後者カテゴリのフィルムは施設内の収蔵庫に置かれている。映像素材を有償で提供するサービスも担っており、施設内にはフィルムスキャナーも備える。映画関連資料は、映画撮影時の制作資料や、販売・流通に関わる社内資料等に限られ、スチルや脚本などといった映画関連資料のなかでも「主流」に位置づけられるものは、FJSPとMGに属する。

FJSPは、映画会社のパテが2006年に設立(2006年5月9日、公益施設として認可)した。建物内に無声映画の上映ホール(定員68人)、展示室、来館者用の閲覧スペース、収蔵庫を備え、パテの歴史を通した映画史・映画文化の振興を理念として掲げる。利潤追求のための組織であるGPAに対して意見を言うことができ、FJSPの要請によってGPAが管理するフィルムを利用者(例えば無声映画祭など)に無償で提供させることもある。3年前より財団でもフィルムを収蔵するようになったが、現物はフランス国立映画映像センター(以下CNC)またはシネマテーク・フランセーズで保管されている。映画関連資料は、1896年のパテ創業以来、本社が保管し続けてきた登記簿謄本や会計書類などの社内資料も含め、現存する関連資料すべてが地下所蔵庫にある。ウ



ジェローム・セドウ・パテ財団の閲覧室を兼ねたオフィス。建物の設計はレンゾ・ピアノ。



ゴーモン・ミュージアムのワークスペース内の作り付けのポスター・収納棚。素材はクルミの木。上部にゴーモンの社章である雛菊が彫刻されている。

ェブページでの所蔵資料の検索も可能で、事前予約すれば閲覧もできる。

MGは、ゴーモンが1989年に設立、1991年より運営を開始した。パリ市内のゴーモン本社と同じ建物内にある。ワークスペースは展示室・収蔵庫も兼ねており、室内は温度19~22度、湿度50%程度。そのためフォージュロン氏は常に冬服着用。フィルムは、ナイトレートの場合、GPAを通して、全てCNCで保管。それ以外のフィルムは、ブルゴーニュ地方にあるエクレール(Éclair)現像所の貸倉庫で保管している。一方、映画関連資料は、ゴーモンが1972年に社屋を移転する際に、創業以来の社内資料などを含む殆どものが廃棄されてしまった。フォージュロン氏は、1989年のMG着任以来、オークションを含む様々な手段で資料を収集し続け、「社内のトイレのゴミ箱から回収したこともある」。現在では、ポスター1万1千点、スチル150万枚のほか、技術資料や衣裳も所蔵。なお、FJSPのサルモン氏は、MGでインターン経験があり、FJSPとMGとの交流も盛んのものであった。

今回の調査ではとくに、3つの施設の役割分担が明らかとなったことが大きな収穫であった。ほぼ同じ歴史を持つ映画会社ゴーモンとパテの、かつての映画関連資料に対するポリシーの違いが浮かび上がってきたことも苦しい事実であろう。しかし過去の愚挙を乗り越えてMGは現在、施設に入りきらないほどの資料を有し(別途、貸倉庫を借りているとのこと)、ゴーモンが主催しパリを皮切りに世界を巡回した展覧会「Gaumont 映画誕生と共に歩んできた歴史」(2015-2018年)では、MGより多数の映画関連資料が出品されていることを最後に付け加えておきたい。

(国立映画アーカイブ特定研究員)

※本報告は平成30年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業による成果の一部である。